「人が輝く元気で住みよいいばらき」づくりにむけて

～新年のご挨拶～

茨城県知事
茨城県統計協会総裁
橋　本　　昌

あけましておめでとうございます。

昨年は，石油の高騰や景気の悪化，雇用不安など，大変な一年でありました。その一方で，国民文化祭の成功や，北関道の県内全区間の開通，世界最先端の研究施設「J－PARC」の稼働など，明るい話題もありました。

今年は，３月に圏央道が稲敷ICまで開通する予定であるほか，来年３月の開港に向け，茨城空港の整備が一段と進んでまいります。また，「国際生物学オリンピック」や「技能五輪・アビリンピックいばらき大会2009」が開催されます。

急激な景気の悪化により県財政は極めて厳しい状況にありますが，職員数の削減や事務事業の見直しなど，徹底した行財政改革に努めながら，県民･企業の皆様と共に，「人が輝く元気で住みよいいばらき」づくりに全力で取り組んでまいります。

とりわけ，本県を今後とも発展させていくため，人・もの・情報の交流基盤の整備を進めますとともに，産業の振興，中小企業の育成，企業誘致の推進，茨城農業の確立などに取り組んでまいります。

また，医師修学資金の貸与や研修医に対する奨励金の支給，女性医師の就業支援などにより，医師確保対策に努めてまいります。少子化対策につきましては，男女の出会いの場の創出や社会全体で子育てを支援する気運の醸成を図るなど，結婚や子育てに夢や希望のもてる社会づくりを進めてまいります。同時に，高齢者の健康づくり・生きがいづくり，環境問題などに取り組んでまいります。

一方，元気ないばらきづくりの基本は「人づくり」であり，科学技術立県を担っていく子どもたちの学力向上と社会性の習得は大変重要です。そのため，理数科教育に力を入れますほか，小・中学生にはおてつだいや社会体験の推奨，高校生には道徳の授業の実施，さらに家庭では「家庭教育ブック」の利用を促進するなど，「人が輝くいばらき」づくりを進めてまいります。

現在，社会・経済を取り巻く環境に大きな変化がある中，このような施策を総合的に推進するためには，正確な現状認識と的確な将来予測が不可欠であり，その基礎資料となる統計の果たす役割は，ますます重要なものとなってまいります。

県におきましては，統計法が全面的に改正されたことを契機として，「茨城県統計調査条例」の全部改正を行い，新たに「茨城県統計条例」として今年４月１日に施行いたします。主な改正点は，県が作成する統計の体系的な整理や，統計調査員を装って記入済みの調査票をだましとるといった，いわゆる「かたり調査」の禁止についての規定及び罰則の新設，調査票情報の漏洩等に関する罰則の強化など，近年の産業構造の変化やプライバシー意識の向上に対応するものであります。

皆様方には，統計の社会的意義と使命をご理解いただき，統計調査へのなお一層のご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈りいたしまして，新年のあいさつといたします。

統計インフォメーション　No.85　―新年にちなんで―

【丑年生まれは24万4,072人　十二支別では８位】

明けましておめでとうございます。

新年の干支は「丑（うし）」です。そこで今回は，茨城県常住人口調査結果から推計した丑年生まれの人口について取り上げてみました。

平成21年１月１日現在の丑年の年男･年女は，推計で244,072人（県の総人口に占める割合8.22％）となっています。男女別にみると，男性は121,247人，女性は122,825人で，女性の方が1,578人多くなっています。

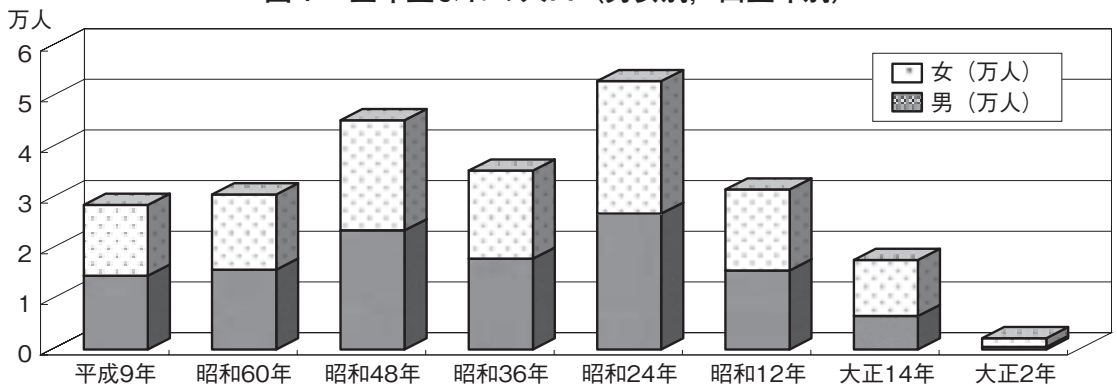
丑年生まれの人口を出生年別にみると，昭和24年生まれ（平成21年中に60歳になる人）が52,958人で最も多く，次いで昭和48年生まれ（同36歳になる人）が45,247人，昭和36年生まれ（同48歳になる人）が35,294人となっています。（表１，図１）

表１　茨城県内の丑年生まれの人口（推計，平成21年１月１日現在）

生まれた年・年齢		男女計	割合	男	割合	女	割合
総　数	―	244,072人	100.0%	121,247人	100.0%	122,825人	100.0%
1997年（H9）	12歳	28,534人	11.7%	14,553人	12.0%	13,981人	11.4%
1985年（S60）	24歳	30,597人	12.5%	15,760人	13.0%	14,837人	12.1%
1973年（S48）	36歳	45,247人	18.5%	23,509人	19.4%	21,738人	17.7%
1961年（S36）	48歳	35,294人	14.5%	17,922人	14.8%	17,372人	14.1%
1949年（S24）	60歳	52,958人	21.7%	26,798人	22.1%	26,160人	21.3%
1937年（S12）	72歳	31,572人	12.9%	15,605人	12.9%	15,967人	13.0%
1925年（T14）	84歳	17,659人	7.2%	6,607人	5.4%	11,052人	9.0%
1913年（T2）	96歳	2,211人	0.9%	493人	0.4%	1,718人	1.4%

（注１）年齢は平成21年中に誕生日を迎えた時の年齢。
（注２）１月１日現在の推計のため，平成21年生まれの丑年の人は含まれない。
（注３）常住人口調査では100歳以上の人口は１歳ごとに集計していないため，今回の推計では108歳の人数はカウントしていない。

図１　丑年生まれの人口（男女別，出生年別）

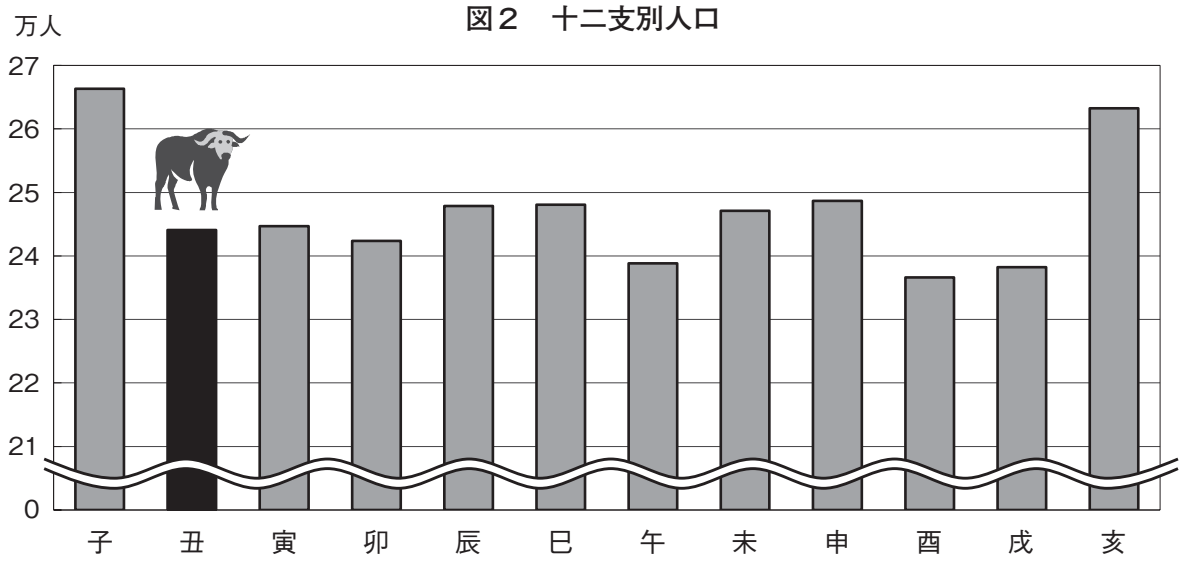


また総人口を十二支別にみると，子（ね）年生まれが266,304人で最も多く，次いで亥（い）年生まれ，申（さる）年生まれとなり，最も少ないのが酉（とり）年生まれとなっています。丑年は８番目です。（表２，図２）

表２　茨城県内十二支別人口（推計，平成21年１月１日現在）

十　二　支	人　　口	順　　位	総人口に占める割合
子（ね）	266,304人	1位	8.97%
丑（うし）	244,072人	8位	8.22%
寅（とら）	244,662人	7位	8.24%
卯（う）	242,387人	9位	8.16%
辰（たつ）	247,879人	5位	8.35%
巳（み）	248,068人	4位	8.36%
午（うま）	238,810人	10位	8.04%
未（ひつじ）	247,126人	6位	8.32%
申（さる）	248,692人	3位	8.38%
酉（とり）	236,609人	12位	7.97%
戌（いぬ）	238,233人	11位	8.03%
亥（い）	263,249人	2位	8.87%
100歳以上，不詳	2,531人	－	0.09%
計	2,968,622人		100.00%

図２　十二支別人口



－茨城県常住人口調査について－

茨城県常住人口調査は，国勢調査の間における県内各市町村ごとの人口及び世帯の移動状況を明らかにするために，県統計課が実施しているものです。国勢調査による人口及び世帯数を基礎とし，これに毎月，市町村から報告のあった出生・死亡・転入・転出者数及び世帯数の増減数を加えて推計しています。